

第3学年 美術科学習指導案

1 単元名 鑑賞『アートカードゲームを使って』

2 単元の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
主体的に鑑賞の創造活動に取り組み，その喜びを味わい，美術を愛好していこうとする。	美術作品に親しみ，感性や想像力を働かせてよさを感じ取り，味わったり，理解したりする。

3 指導観

- 「心の教育」が叫ばれている昨今，その在り方がいろいろ問われているが，道德教育の重視のみならず，子どもたちのしなやかな感性を育てていくためには，「感性教育」を推進していくことが大切であり，生涯教育という視点からも造形教育における鑑賞活動を通しての美的感受性を育むことは，重要な課題である。

本来，鑑賞という行為は，自分の造形活動や親しみのある美術作品などを見たり，触れたりしながら，自分の見方や感じ方をもとにして，作品のよさや美しさなどの感覚や感性を高める学習活動である。作品のよさや美しさを味わい，積極的に見る目や感じ取る力，美に感動する心などを培い，鑑賞に取り組む態度や能力を養成することは，日常の生活においてとても大切な学習であると考えます。

- 下山門中の生徒は，表現活動の課題を与えると，高い制作意欲や関心を示し，真面目に取り組む生徒が多い。しかし，美術館・博物館等にある有名な本物の作品に触れる機会も少なく，普段の生活においても美術活動をしている生徒は少ない。構想を練る段階のアイディアに乏しく，視野が狭いのが現状である。

3年生において，想像力を高めたり，視野を広げさせるためにも，鑑賞の仕方や積極的に見る目や感じ取る力，美に感動する心などを培っていく必要があると思われる。

- 今回，資料集を用いて有名な作品50点のアートカードを6セット作成した。作品の「共通点さがし」や，「特徴の比較」，また「お話づくり」など，ゲーム仕立ての鑑賞学習の楽しさは，その後美術館で本物を鑑賞することへの期待を高めることになる。

また，ゲームをしながら，生徒同士のコミュニケーションをさせることで，共感を覚えたり，様々な考え方・物の見方を知ることができる。なによりも，アートゲームをすることにより，仲間作りの一端を担うことができると考える。これらを踏えて本題材を設定した。

4 指導計画及び評価計画（1時間）

配時	主な学習活動・内容	評価規準
1	1 能動的に美術作品のよさを味わう。	(関) 友達の発表にも共感がもてる。 (鑑) 活動を通して，色や形，構図，材料，タッチなどの様々な鑑賞のポイントに気付くことができる (関) 作品から読み取ったものを，言葉で説明できる。

5 本時 美術室

6 本時の目標

- 能動的に美術作品のよさを味わうことができる。

7 本時指導の考え方

アートカードゲームを班員と楽しみながら、美術作品のよさを味わうことができる。

8 準備 アートカード6班分・振り返りワークシート・モナリザの作品・
迷宮美術館の本

9 本時の展開

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	集団づくりを生かす手だて	評価規準 ＜評価の方法＞
5	1 鑑賞についての話を聞く。	● 迷宮美術館やモナリザを例に鑑賞について説明する。	● 班形態の座席で正対させる。	● じっくり作品を鑑賞できる。
5	2 アートカードゲームのルールや要領を理解する。	● ルールを守ってゲームをさせる。(時間になったら切る。)	● 班員全員を、アートカードの見える位置に立たせる。	● 作品の特徴を見付けられる。
20	3 机に並べ各自鑑賞する。 4 ゲームを行う。(同じ作者の作品を順番に取っていく。)	● 明るい雰囲気、班員みんなで取り組ませる。 ● 自分の感じたことを言葉で表現する方法を知らせる。(色、構図、材料、形、モチーフ、タッチなど)	● ゲームのルールを理解させる。 ● 班員で、それぞれの特徴を相談しながら選ばせる。	● 主体的に鑑賞活動に取り組み、その喜びを味わうことができる。
10	5 同じ作者の作品から共通する特徴を班員と協力して探す。 6 班毎に発表する。 7 悲しい感じのする作品や穏やかな感じのする作品を班で3枚選び、それらの特徴を探す。	● どんどころから感じてくるのか考えさせる。発表の仕方も、何となくではなく、具体的な言葉で発表させる。	● 色や形、構図などの効果に気付き、互いに認め合う。	● 友達の発表にも共感をもつことができる。 ● 作品から読み取ったものを言語化できる。
10	8 班毎に発表する。 9 自分の好きな作品を1つ選び、特徴やよさを言葉で説明する。 10 班毎に発表する。 11 自己評価をする。 12 まとめを聞く。	● 再度、鑑賞の視点を説明し、作者の背景、生き方、色づかい、描いた人の気持ち、比喻(～のような)、程度(とても、かなり)を考えて記入させる。	● 班員の選んだ作品の特徴を話し合いお互いの個性や感性の違いを認め合う。	● 能動的に美術作品のよさを感じ取ることができる。

集団づくりの取り組み年間計画（ ）年

	取り組み内容	ねらい
4月		
5月		
6月		
7月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		